

学んで、知って、楽しいことが満載！

神津歴史探訪



神津小学校地区自治協議会

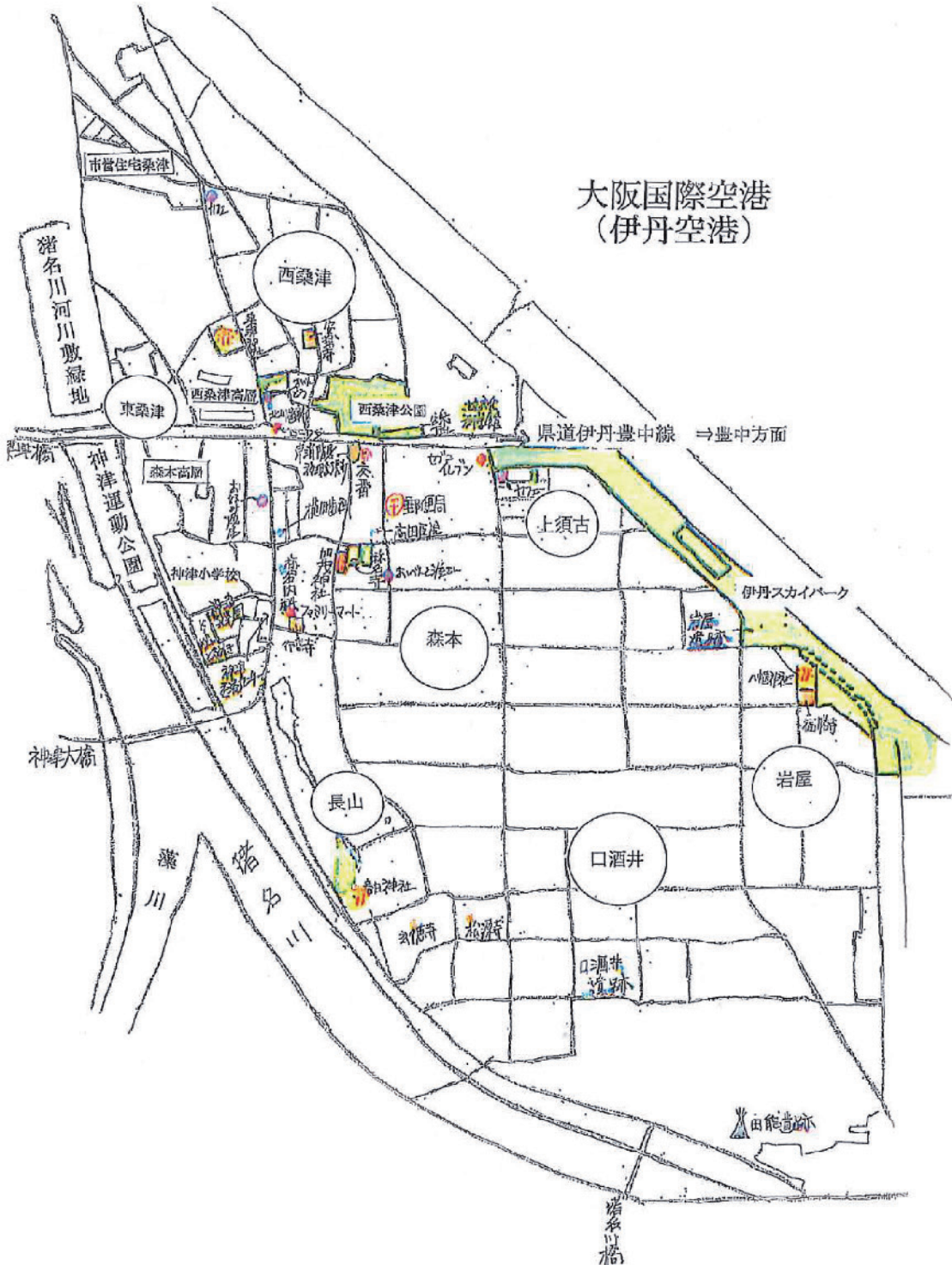
目 次

1. 神津の概要	… 2
2. 神津の歩み(年表)	… 4
3. 神津の歴史資産(神社)	… 8
4. 神津の神社行事	… 9
5. 神津の歴史資源(仏閣)	… 10
6. 神津の遺跡	… 11
7. 神津の農業の歴史	… 12
8. 神津の教育・文化の歴史	… 14
9. 神津の公園	… 16
10. 神津の公共施設	… 17
11. まちづくり基盤整備(橋と神津のかかわり)	… 19
12. まちづくり基盤整備(大阪国際空港と神津のかかわり)	… 20
13. 編集後記	… 22

神津の概要

(令和3年4月現在)

(1) エリア図



(2)位置・概況

神津小学校地区は、伊丹市東端に位置し、東は池田市・豊中市、南は尼崎市に面するおよそ160.35haの地域です。地区の中央を東西に県道伊丹豊中線が走り、地区東部には大阪国際空港があります。空港周辺には工業系土地利用(工場・倉庫等)が広がり、県道伊丹豊中線周辺では住居系の土地利用があり、また森本、口酒井、岩屋を中心に短冊型の農地が広がって、農住工が混在している地域です。JR伊丹駅からも近く、都会でありながら田舎の良さをもつ親しみやすく住みやすい地域です。



(3)人口

地域の人口は、令和2年は5,900人、世帯数2,669世帯で微増となっています。

①人口・世帯数の推移

	平成29年		平成30年		令和元年		令和2年	
	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数	人口	世帯数
校区計	5,987	2,647	5,910	2,633	5,885	2,619	5,900	2,669

②年齢別人口

	0～14歳		15～64歳		65歳以上		計
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口
平成29年	664	11.09	3,478	58.09	1,845	30.82	5,987
令和元年	657	11.16	3,402	57.81	1,826	31.03	5,885

神津の歩み(年表)

年号	主な出来事
明治22年	神津村誕生(下河原村・中村・小坂田村・東桑津村・西桑津村・森本村・岩屋村・口酒井村8村合併)
大正3年	神津村に初めて電灯が灯る。
大正11年	神津村立農業補習学校が設立される。(昭和3年に村立農業公民学校、昭和10年に青年学校となる)
大正14年	神津尋常小学校に高等科が併設され、校舎を増築する。(翌年完成)
昭和9年	県道伊丹高槻線軍行橋の開通式が行われる。
昭和11年	森本に神津製作所、西桑津に口東紡績伊丹工場が設立される。
昭和14年	大阪第二飛行場(後の大阪国際空港)完成。
昭和15年	飛行場の拡張に伴い、東桑津が解村する。(翌年小阪田も解村)
昭和22年	神津村が伊丹市に編入される。(3月1日)
昭和22年	神津国民学校が市立神津小学校となる。
昭和33年	伊丹航空基地がアメリカ軍から返還され、大阪空港となる。(翌年大阪国際空港と改称)
昭和35年	台風で猪名川が氾濫して口酒井地区が浸水し自衛隊が救助活動。
昭和39年	大阪国際空港拡張により、岩屋地区が現在地へ移転。中村地区は解村する。
昭和39年	大阪国際空港にジェット機が初めて就航する。
昭和54年	神津小学校が森本1丁目(神津製作所跡地)に移転。
昭和56年	神津小学校跡地に西桑津公園ができる。
昭和57年	口酒井遺跡で縄文・弥生時代の遺物発掘
平成2年	神津大橋が完成する。伊丹市立こども文化科学館が開館する。
平成6年	関西国際空港が開港し、大阪国際空港の国際線が廃止される。
平成7年	阪神・淡路大震災で神津地区も被害をうける。
平成9年	JR東西線が開通する。利便性が高く大阪へ30分で行ける。
平成10年	豊中市原田西町にクリーンスポーツランドが開設される。
平成11年	市立神津福祉センターが開設。(ケイメゾンときめき建物内)
平成15年	岩屋遺跡の発掘調査で弥生時代の用水路と堰(せき)が見つかる。(伊丹スカイパーク内に展示)
平成20年	伊丹スカイパークグランドオープン。
平成25年	神津こども園が開設。(幼稚園・保育所併設)
平成28年	神津交流センターが開設。(図書館・児童館・神津支所・会議室併設)

(1)神津村の誕生

神津の歴史は、常に稲作と深く結びついており、当時の人々の生活の基盤になっていたことが遺跡からもわかります。近世の神津地域は、東桑津・西桑津・森本・口酒井・岩屋・中村・小阪田・下河原の8ヵ村があり、町村制施行により明治22年(1889)に8ヵ村が合併し、神津村となりました。

□村名の由来

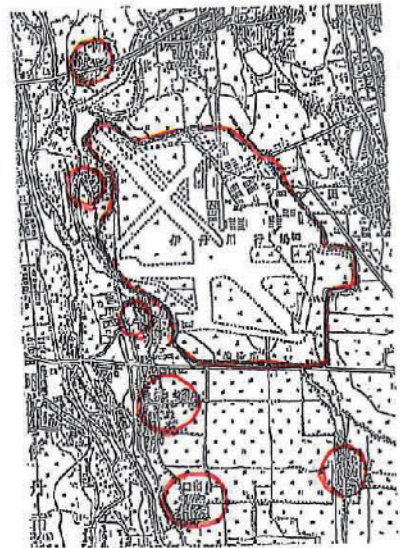
「川辺郡誌」(大正3年刊行)によれば、「神代の昔、天火明命(あめのほあかりのみこと)、天火闌命(あめのほつせりのみこと)の二神、今の東西桑津の地に下居し玉ふ。其の地を宮内と称し又屋主といへり。

二神幽境に入り給う所を神塚と称せり。明治に至り新村名に川東の称を以てせしも、しかる由緒ある地なれば、神津と称することに改めたりとぞ。」と記載されている。また、一説によれば村名は、「日本は神国にして、地は摂津なり、宣しく両者の一字づつを取りて神津村」とした説もあります。

村域図(昭和16年頃)



昭和28年



飛行場の工事・拡張により土地は1等田地(米蔵)から、爆音のどろろく空港、また工場地域へと変貌しました。

(2)伊丹市との合併

昭和になると、大阪第2飛行場(現在の大阪国際空港)の建設が始まり、昭和22年(1947)神津村は伊丹市に編入されました。

□合併時の伊丹市・神津村の状況

区分	伊丹市	神津村	合計
人口	42,401	3,170	45,571
住戸数	10,172	874	11,046



神津村役場

(3)神津小学校の誕生と移転

明治6年、旧村東桑津字大塚に設立された大塚小学校が神津小学校の前身とされています。生徒数83名、教師2名でした。昭和22年に神津村と伊丹市の合併に伴い伊丹市立神津小学校となり、その後昭和54年8月に森本1丁目8番地(神津製作所跡地)に新築移転しました。



平成29年校庭の芝生化

(4)台風や地震等災害

昭和28年の台風13号により軍行橋、桑津橋が流出。神津地区200戸が床上1mの浸水被害



(5)都市基盤整備が進む

【大阪国際空港(昭和33年)】



【神津大橋が開通する(平成2年)】



【JR東西線が開通する(平成9年)】

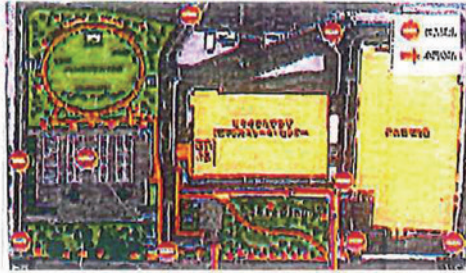


神津地区から大阪まで約30分
利便性の大幅な向上となりました。

□ゴミ処理及び下水処理施設の建設

【豊中市伊丹市クリーンランド】

燃やすごみ、燃やさないごみ、粗大ごみ、資源ごみの適正な処理を行っています。



令和2年リニューアル完成

【原田処理場(下水処理施設)】

下水を処理した後、猪名川へ放水
屋上部を利用して多目的運動広場・
せせらぎ広場・芝生広場があります。



昭41年使用開始

□大型集合住宅(団地)が建ち並ぶ

【県営森本高層】

昭和58年竣工(196戸)



【県営西桑津高層】

平成9年竣工(270戸)



【市営桑津住宅】

平成18年竣工(95戸)



(6) 公共施設が次々にオープンしました。

【こども文化科学館(平成2年)】



【神津福祉センター(平成11年)】

特別養護老人ホームと併設



【伊丹スカイパーク(平成20年)】



【神津こども園(平成25年)】



【神津交流センター(平成28年)】



神津の歴史資産(神社)

神津には桑津神社(西桑津)・加茂神社(森本)・春日神社(口酒井)・八幡神社(岩屋)があります。

【桑津神社】(桑津1丁目)



桑津神社正面



火明神社の本殿(稲荷社)



境内末社 中村社

慶安元年(1648)棟札

昭和17年の空港建設で立ち退きになった旧西桑津村の火明神社と旧東桑津村の火闌降神社が合祀、現在地に移転し社殿を新築、神社名を桑津神社としました。昭和39年の大阪国際空港拡張に伴い、旧中村地区が空港用地となったので、その土地の素盞鳴神社が桑津神社に合祀されました。境内には素盞鳴神社の末社を祀った中村社と火明神社にあった稲荷社が移されています。稲荷社は平成27年2月19日に県の重要有形文化財に指定されました。

【加茂神社】(森本2丁目)



御祭神:加茂別雷神(かもわけいかづちのかみ)

創建は南北朝の頃と言われ、応永元年(1394)祭神は治水を司り、生活安全・農業の水利を守護、方位除災の加護を垂れ給う神です。

【春日神社】(口酒井1丁目)



寛永18年(1641)棟札

春日神社は天児屋根命(あめのこやねのみこと)を御祭神としています。同社の本殿は、昭和51年3月23日に県の有形文化財に指定されました。

【八幡神社】(岩屋1丁目)



御祭神:譽田別命(ほんだわけのみこと)

岩屋下岩井に鎮座されていたが、昭和41年に大阪国際空港拡張により、岩屋地区が移転したので神社も共に現在地に遷り銅板葺流造作りの社殿を新築しました。

神津の神社行事

3月 【祈年祭】

本来は民衆が行う田の神への予祝祭でした。旧暦の2月17日に行われていましたが、民間では時期が統一されておらず、神津地区では3月に執り行っています。

8月 【愛宕祭】

各地の愛宕神社で行われている祭。火伏・防火に霊験があると言われ、森本地区の愛宕祭は8月24日に執り行っています。



火で山野を焼き払い焼き畑を作って五穀をここに蒔き、収穫を計った古代の農耕の守護神。

10月 【例大祭(秋祭り)】

例大祭は神社で毎年行われる祭祀のうち、最も重要とされるもので、一定の時期（10月20日前後）を祭りの日と定めます。神への供物が盛大に捧げられ、地域の子孫繁栄、豊作等を祈ります。



11月 【新嘗祭】

11月23日に全国の神社で執り行われる行事で、新穀感謝とも言います。五穀農穰、お米や他の穀物・農産物の実りに感謝します。

12月 【しめ縄飾り】（注連縄）

注連縄は神の領域と現世を分け隔てる「结界」として、不純なものが入るのを防ぐという役目を担うものと言われています。



1月 【とんど（とんど焼き）】

小正月1月15日に行われる火祭り行事です。地域の人々の1年間の災いを払い、豊作や商売繁盛、家内安全、無病息災、子孫繁栄を願う行事です。門松やしめ縄などの正月飾りや、前年のお守り、お札、熊手、書き初めなどをもやすのが一般的です。



神津の歴史資源(仏閣)

【称名寺】(森本:浄土真宗)

称名寺は戦国時代の禅寺で森本氏の氏寺とされる「森巖庵」跡に新たに浄土真宗の道場として建てられたようです。江戸時代に釈了善が中興開山となり称名寺が建てられたと伝えられています。



境内には鐘楼があり、梵鐘は伊丹鋳物師の瑞光の作です。

【安楽寺】(西桑津:浄土真宗)

鐘楼の釣鐘は太平洋戦争中に供出されたが、幸いにも破壊を免れ、戦後返還され、今も鐘の音を発しています。



【行善寺】(森本:浄土宗)

寛永10年(1633)創建の浄土宗法高寺廃絶し、その跡地に伊丹郷から行善寺が移転しました。元禄年間から伝わる川辺西国観音33所の第24番札所です。



【松源寺】(口酒井:黄檗宗)

黄檗宗松源寺には大阪城代であった阿部正次の菩提を弔う墓があります。



【福勝寺】(岩屋:浄土真宗)

真宗大谷派の寺院で官榮年の創建。創建当時の寺域は相当広大で、周辺地域は紅葉の美しいところで歌にも詠まれています。



【玄德寺】

(口酒井:浄土真宗)

本堂は一般住宅建築で村が設立管理する寺。



神津の遺跡

現在、神津地域には15カ所の遺跡が発見されています。多くは縄文～古墳時代を中心としますが、奈良時代や平安時代、中世以降の遺跡も含まれます。

(1)口酒井遺跡～縄文時代から古墳時代にかけての複合遺跡

縄文晩期の土器に刃痕の残る土器(浅鉢)が存在したこと、また稲の収穫道具である石包丁が発見された。この地で弥生時代以前から稲作が行われていたことが明らかになりました。



刃痕のある浅鉢形土器



神津の歴史展示(伊丹スカイパーク)

(2)岩屋遺跡～弥生時代前期の高度な灌漑技術・施設

この地域に流れていた河川を堰き止め、人工の水路に水を導く施設で、当時としては最新の土木技術を用い、規模が大きかったことが特徴です。



灌漑施設(用水路と堰)



伊丹スカイパークエントランス付近に展示

(3)森本遺跡や小阪田遺跡

神津を含む摂津地域で活躍した森本氏の居館跡地から室町時代の土器・陶磁器・瓦が出土しました。



条理に並行する溝(森本居館跡)



掘立柱建物跡(小阪田遺跡)

神津の農業の歴史

神津地区では、現在も森本・口酒井・岩屋を中心に農業が営まれており、地区内には約8.5haの農地があります。これらの農地では多様な作物が作られています。

(1) 稲作と条里制

神津地域は、猪名川によって形成された沖積平野で、洪水によって運ばれた土砂が溜まって出来た微高地と肥沃な低湿地が広がっており、このような地形は稲作農耕に適した地域で、口酒井などの遺跡調査の結果から、稲作の始まりは縄文時代の終わりごろからとされています。以降、奈良時代には班田収受の法による条里制が施行され、稲作を中心とした生活がより本格化したと考えられます。森本・口酒井・岩屋地区には、今も過去の条里制の名残が窺える短冊形の農地が広がっています。



田植え



稲穂が実る



稲刈り



条里区画と坪地名

(2) 農産物の栽培と流通

①栽培方法・・・自然の恵みを受け露天の畑などで栽培した「路地栽培」と天候に左右されない栽培環境を維持できるビニールハウスなどで栽培した「ハウス栽培」があります。

【路地栽培】



ほうれん草



大根



【ハウス栽培】



トマト

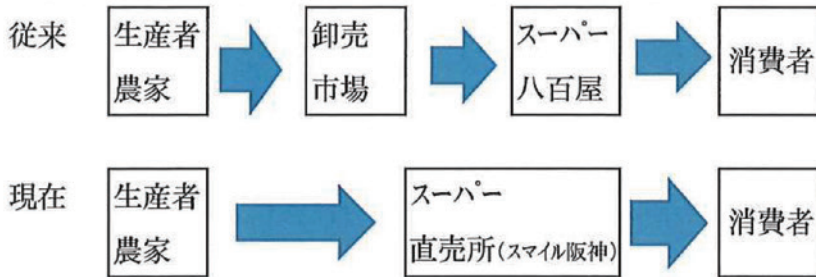


なす



小松菜

②流通経路の変化・・・相対取引(セリ)から産直(地産地消)へ



(3)野菜栽培の歴史

昭和32年ごろからキャベツ、ほうれん草、イチゴ、トマトを路地栽培していましたが、天候に左右されないビニールハウス栽培へと移行し、常に高品質で安定した農産物の生産が主流です。

	路地栽培	ハウス栽培
昭和32年頃	ほうれん草、キャベツ、トマト チンゲン菜、イチゴ、生花(菊)	
昭和50年頃	ほうれん草	トマト、きゅうり、菊菜
平成10年頃	ほうれん草、菊菜、小松菜、水菜	ほうれん草、小松菜
現在(令和)	ほうれん草、菊菜、小松菜、水菜 ダイコン	トマト、ミニトマト、きゅうり、ナス、 オクラ、ピーマン、甘長とうがらし 菊菜、小松菜、水菜

【特産品】

□神津産のトマトは化学肥料を使用しないで、堆肥や有機肥料で土づくりを行い、水分量を調整し糖度の高いトマトを栽培しています



神津産トマト



ミニトマト(プチぷよ)



ほうれん草



小松菜



写真1 根付きの葉出荷

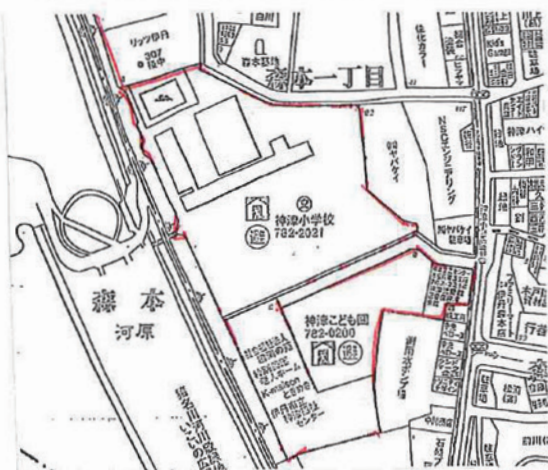
菊菜



水菜

神津の教育・文化の歴史

神津小学校地区には神津小学校をはじめ、神津子ども園や神津交流センター等が隣接しており、文教エリアとして子育て・教育環境が整っています。



(1) 神津小学校の歴史

明治6年	明治6年3月15日設立。大塚小学校(旧東桑津字大塚の遍照寺を借りて開校)
明治11年	明治11年7月に今の西桑津公園場所に移転。川東(セントウ)小学校と校名を変更
明治24年	3月 神津尋常小学校に校名変更
明治40年	4月 神津尋常高等小学校(高等科第1・2学年併設)に校名変更
明治41年	4月 神津尋常小学校(義務教育年限延長)に校名変更
大正15年	4月 神津尋常高等小学校(高等科第1・2学年共収容)に校名変更
大正15年	5月 校舎改築落成
昭和16年	4月 神津国民学校となる。
昭和16年	11月 新校舎落成
昭和19年	神津国民学校の児童が神津航空工業(神津製作所が改名)の工場に動員されて働く。
昭和22年	4月 神津村と伊丹市の合併に伴い伊丹市立神津小学校となる。
昭和23年	4月 神津幼稚園併設
昭和47年	3月 神津幼稚園独立、新園舎竣工移転
昭和54年	8月 神津小学校が森本1丁目8番地(神津製作所跡地)に新築移転する。
平成17年	2月 創立130周年記念式典挙行政
平成26年	11月 創立140周年記念式典挙行政
平成29年	7月 校庭の芝生化完成

□神津小学校の児童数

	S25年	S45年	S49年	S55年	H2年	H12年	H22年	H30年	R3年
人口	4,613	8,821	10,291	7,220	7,823	6,875	5,932	5,910	5,862
学級数	11	19	23	25	15	13	14	11	12
児童数	448	745	936	968	518	341	273	248	239

□学校生活の昔と今

※H2年はH1年10月1日時点の人口



猪名川での水泳教室



耐寒マラソン

日東紡付近
(35年ごろ)



プールでの着衣水泳



タブレット学習



運動会(チアドリーム神津)

□ひょうたん飾り



ひょうたん(地元特産品)を使った作品作り

(2)神津こども園(幼稚園・保育所等)の歴史

昭和23年	4月 神津幼稚園併設
昭和47年	3月 神津幼稚園独立、新園舎竣工移転(森本3丁目62番地)
昭和43年	5月1日 神津保育所開設(東桑津字池田川筋89-36)
昭和56年	4月1日 神津保育所移転(森本2丁目56-3)
平成25年	4月1日 神津こども園が新園舎で開設される(森本1丁目8-25)

神津の公園

公園名	主な遊具	公園名	主な遊具
西桑津公園	滑り台、スプリング遊具、複合遊具、腹筋ベンチ、ぶら下がりがり、ツイストボード、足ツボ踏み、背のぼしチェア等	沢公園	スイング遊具、ジャングルジム、複合遊具、ストレッチフープ、ジワジワ前屈、ぶら下がりがり、ツインバー
北浦公園	スイング遊具、複合遊具、回転スケーター	神津公園(北側)	ブランコ、複合遊具
神津公園(南側)	滑り台、ブランコ、鉄棒、砂場	森本児童遊園	滑り台、ブランコ、鉄棒、ジャングルジム
淵ノ上公園	滑り台、背のぼしチェア、ツイストボード	柿の木児童遊園地	滑り台、ブランコ、鉄棒、砂場、雲梯
上須古児童遊園地	砂場、ジャングルジム	岩屋児童遊園地	滑り台、ブランコ、鉄棒



西桑津公園



沢公園



北浦公園



森本児童遊園



淵ノ上公園



柿の木児童遊園地



上須古児童遊園地



神津公園(北側)



神津公園(南側)



岩屋児童遊園地



スカイパーク

神津の公共施設

【伊丹市立こども文化科学館】

プラネタリウム館、文化センターからなる複合施設で平成2年度に開館。子どもや保護者対象の天文、工作などの講座開催。



【伊丹市埋蔵文化財センター】

市内埋蔵文化財の調査・研究施設として、平成29年度に開館。市内の遺跡から出土した資料の保管、整理、展示機能をもっています。



【伊丹市立神津福祉センター】

特別養護老人ホーム「ケイ・メゾン・ときめき」と併設された老人福祉センター。高齢者をはじめ地域住民の「いきがづくり」「健康づくり」を目的に運営。各種講座・教室を開講しています。



【伊丹市神津交流センター】

多世代間交流が可能な施設として、神津児童館、市役所神津支所、図書館、神津分館、貸館等が集約されています。



【伊丹市立神津小学校】

森本1丁目8番地(神津製作所跡地)に昭和54年8月に新築移転。



【伊丹市立神津こども園】

幼稚園・保育所併設の認定こども園が平成25年に開園。令和3年4月1日現在 園児数189名



□共同利用施設(センター)

現在、神津地域にはそれぞれの地区に共同利用施設(センター)があります。



【西桑津：桑津2丁目1番22号】



【いながわ：森本1丁目1番地の4】



【森本：森本2丁目196番の1】



【上須古：森本7丁目31番地】



【長山：森本6丁目129番地】



【岩屋：岩屋1丁目5番42号】



【口酒井：口酒井1丁目3番39号】

【高齢者憩いのセンター(口酒井センターに隣接)】



地域において、高齢者に対し教養の向上やレクリエーション等のための場を提供し、高齢者の心身の健康の増進を図ることを目的とした生きがい支援施設です。

まちづくり基盤整備(橋と神津のかかわり)

◆橋と神津のかかわり

神津地区は伊丹市の東端に位置し、大阪国際空港と猪名川に挟まれたエリアです。このような位置にあつては日常生活、通勤・通学や伊丹市内、京阪神への外出などインフラとしての桑津橋、神津大橋等は必要不可欠です。

【猪名川水管橋】

猪名川を渡って水を運ぶための橋で、水不足に悩んでいた伊丹市が工業用水を琵琶湖からひくため水管橋を造ったと言われています。



【神津大橋】

平成2年に完成。当初は、木造の口酒井橋の付け替え、水管橋を整備して人間が通れる状態にする計画であったが、それではトラックが通れない為、今の神津大橋が建設されたと言われています。



【桑津橋】

昭和28年9月の台風13号により木造の桑津橋は流出しました。平成7年1月の阪神大震災で壊れて通行不能、その後現在の4車線の橋に生まれ変わりました。



【軍行橋】

明治44年猪名川を挟んでの陸軍大演習が開かれた際、演習用に架けられた橋から軍行橋と名付けられたと言われています。



まちづくり基盤整備(大阪国際空港と神津のかかわり)

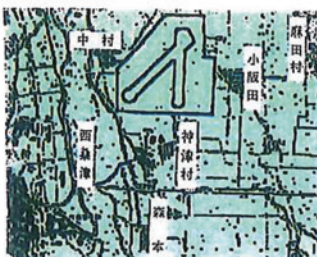
◆大阪国際空港(伊丹空港)と神津のかかわり

神津村小阪田・東桑津・西桑津・中村と池田市北今在家にまたがる約53haの田んぼが飛行場の候補となり昭和11年12月着工、昭和14年1月17日開港。その後飛行場の軍事利用や拡張、騒音、市民運動、「平成」の空港存続・共生に至るまで地元神津とは深いかかわりがあります。

昭和14年	1月 「大阪第二飛行場(伊丹飛行場)」として、川辺郡神津村に開港。
昭和16年	12月 太平洋戦争中は軍用飛行場の「伊丹飛行場」となった。
昭和20年	8月 敗戦後はアメリカ軍に接収され「イタミ・エア・ベース」と名づけられた。
昭和33年	3月 アメリカ軍の撤収解除後、再開港し「大阪空港」と名称を改める。
昭和34年	7月 第一種空港「大阪国際空港」になる。
昭和37年	大型ジェット機就航の拡張計画で、岩屋・中村の2つの集落が移転。
昭和39年	6月 ジェット旅客機が就航。10月「大阪国際空港騒音対策協議会」が発足。
昭和42年	8月 国が「航空機騒音防止法」を制定する。
昭和45年	5月 3,000メートルの新滑走路(B滑走路)使用開始。国際線が多数就航。
平成2年	大阪国際空港騒音対策協議会は運輸省との協定書に調印。空港存続となる。
平成6年	関西国際空港が開港し、すべての国際線が「関西国際空港」へ移管。
平成28年	4月1日運営権を取得した「関西エアポート株式会社」による大阪国際空港の運営・管理。

□伊丹空港の正式名称の変遷

年 月	飛行場の正式名称
昭和13年～昭和16年	大阪第二飛行場
昭和16年～昭和20年	(陸軍航空基地)
昭和21年～昭和33年	伊丹航空基地「イタミ・エアベース」
昭和34年～現在	大阪国際空港 昭和33年3月18日、アメリカ軍から返還され「大阪空港」となるが翌年9月1日に「大阪国際空港」に名称変更となる。



大阪第二飛行場



1950年代初めの伊丹エアベース



大阪国際空港

(1)伊丹飛行場(大阪第二飛行場)の開港

大阪国際空港は昭和14年1月17日、大阪第二飛行場として開港いたしました。

□大阪第二飛行場の拡張と消えた村

大阪第二飛行場は、開場と同時に時代遅れとなり、大型機対策のため大阪第二飛行場の拡張が決定されました。これにより、昭和15年10月拡張工事が始まり、用地買収や民家の移転が進められ、同年に小阪田(52戸)と東桑津(19戸)の両村が、昭和39年には中村地区が解村いたしました。

□イタミ・エアース...敗戦で、米軍に接收された飛行場は「伊丹航空基地」と呼ばれた。



イタミ・エアースのエプロン風景



ぼたるがけ
蛭池駅からイタミ・エアースへ向かう通り



イタミ・エアースのアーチ(国道176号線の空港入口付近)

(2)ジェット機の就航・万博の開催と航空機騒音の住民運動

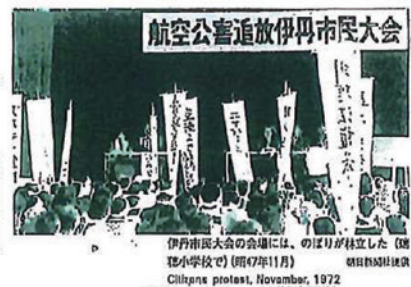
昭和45年2月、3000mの滑走路が供用開始され、同年開催の万国博覧会が契機になり、国際線が多数就航する国際空港として発展しましたが、騒音などの公害問題と住民訴訟が相次ぎ地元自治体などが空港廃止を求める事態となりました。



エンジン2基のボーイング



ダグラスDC-10-40



伊丹市民大会の会場には、のぼりが林立した(国
花小学校で)(昭47年11月) 朝日新聞社蔵
Citizens protest, November, 1972

□大阪国際空港騒音対策協議会の発足

昭和39年10月16日、空港周辺地域による騒音問題に対処するため空港周辺8市は、連携して航空機騒音問題に対処していくことを目的として「大阪国際空港騒音対策協議会」を結成。

(3)大阪国際空港と共生する都市宣言

平成6年の関西国際空港開、平成18年の神戸空港開港により、関西3空港時代を迎え、平成19年、伊丹市は「大阪国際空港と共生する都市宣言」を行い、空港との共存・共生への道を進みました。



□空港周辺環境の整備として、夜間発着禁止、学校・住宅の防音、共同利用施設の整備などの周辺対策が進められた。平成20年7月には、騒音の緩衝緑地を活用した伊丹スカイパークが開園しました。

編集後記

神津地区の今後の10年を見据えた将来ビジョン(地域ビジョン)を令和2年に策定いたしました。緑豊かな自然・広大な農地、由緒ある神社・仏閣など歴史的な建物や文化が残っている「神津」を将来にわたって維持し、神津の新たな魅力や歴史・文化などを再発見していくためには、神津地区の人々が「神津」を理解し、「神津」を愛さなければなりません。子どもは「地域の宝」、高齢者は「地域の財産」とよく言われるますが、多世代交流を通じて「神津」の良さを共有しあい、定住人口増に寄与する地域コミュニティを持続可能なものにする必要があります。

そこで、今回「神津」の誕生から令和の現在までを「神津歴史探訪」として一冊に編集いたしました。本冊子編集にあたり、多数の方々、各方面からあたたかいご支援ご協力を賜りました。おかげさまで、なんとか編集が叶いましたことを厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、編集に携わっていただきました皆さまに心より感謝を申しあげますとともに、神津地区の皆さまの今後ますますのご清栄とご多幸をお祈り申し上げます。

□参考文献(順不同)

「創立100周年記念誌」	伊丹市立神津小学校
「翔 大阪国際空港五十年誌」	大阪国際空港五十年誌記念事業実行委員会
「地域研究 いたみ」	伊丹市立博物館
「文化財を訪ねて ～いたみ歴史散策～」	伊丹市文化財ボランティアの会
「伊丹市埋蔵文化財マップ」	伊丹市教育会
「伊丹市埋蔵文化財資料」	伊丹市教育会
「JAいたみ 50年のあゆみ」	伊丹市農業協同組合
「いたみの寺院」	ホームページ

□写真・資料等の提供者(敬称略、順不同)

伊丹市立博物館(小長谷正治)	伊丹市立神津小学校(西尾 隆)
伊丹市(空港政策室・公園課・まちづくり推進課・農政課)	
森本農会(阪部英夫・藤本敏幸・松浦 勇)	岩屋八幡神社(安積 晟)

- 令和4年5月発行
- 編集・発行 神津小学校地区自治協議会
- 編集・発行 伊丹市森本1丁目8番地22
- 発行人 阪部 隆進
- 印刷所 株式会社 PATONA